

貯蓄の状況

1 概要

(1) 二人以上の世帯の貯蓄現在高は1719万円

平成19年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1719万円で、前年に比べ0.2%の減少となった。貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、年間収入が649万円で前年に比べ0.6%増加したこともあり、前年に比べ2.1ポイント低下し264.9%となった。

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合55.1%）についてみると、1世帯当たり貯蓄現在高は1268万円で、前年に比べ0.3%の増加となった。また、年間収入が718万円で前年に比べ0.7%増加し、貯蓄年収比は、前年に比べ0.7ポイント低下し176.6%となった（表1）。

表1 貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	対前年増減率		貯蓄 年収比 (%)	中位数 (万円)
			貯蓄 現在高 (%)	年間 収入 (%)		
二人以上の世帯						
平成14年	1688	683	-	-	247.1	1022
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1027
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1024
17	1728	645	2.1	-0.8	267.9	1052
18	1722	645	-0.3	0.0	267.0	1008
19	1719	649	-0.2	0.6	264.9	1018
うち勤労者世帯						
平成14年	1280	748	-	-	171.1	817
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2	808
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4	805
17	1292	719	1.5	-1.5	179.7	807
18	1264	713	-2.2	-0.8	177.3	772
19	1268	718	0.3	0.7	176.6	783

(2) 貯蓄現在高が100万円未満の世帯は9.3%

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1719万円）を下回る世帯が67.8%（前年67.9%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。貯蓄現在高が最も少ない100万円未満の階級が、二人以上の世帯に占める割合は9.3%となっており、前年（10.0%）に比べ0.7ポイント縮小した。

また、世帯全体を二分する中位数は1018万円（前年1008万円）となった。

このうち勤労者世帯についてみると、平均値は1268万円、中位数は783万円であり、二人以上の世帯より低いものとなっている。なお、最も世帯数の多い100万円未満の階級の勤労者世帯に占める割合は11.3%で、前年（11.9%）に比べ0.6ポイント縮小した（図1）。

図1 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 平成19年 -

